

19/12/26 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 第21回天守閣部会  
(名古屋市民オンブズマンによるメモ)

蜂矢:始める

河村:おはよう 21回目

市長を800万円でやらせていただいている

市民の声を届ける仕事

もう71

80くらいの人「早く作ってくれ」圧倒的に強い

八事から声がかかっている

夢 僕と名古屋市民、世界の夢

図面も残っている

よみがえらせる 法隆寺が1300年

戦争がない、シンボル

務めだと思っている

コンメンタール「なぜ適用除外をするのか」務めだ

石垣部会とも仲良くやっぺいこう

大筋完全に方針は一致した

千田さん 市民集会に来た

一致してやっぺいいくのが石垣部会の意見

千田「個人的意見 年度内に調査ができるといいけど」

一段とお力をお借りしたい

酒飲まないとやっぺいいけない

市民にかわって

松雄局長:ありがとう

4月局長 会に出席したかった 出れなく申し訳ない

出席して議論に加わりたい

報告 8月29日 竣工期限遅らせること

20回指摘事項、消火設備関係 防災、設備について

復元原案 建具について

蜂矢:市長、局長は退席する

出席者紹介

愛知県は欠席

写真・ビデオはこれまでにしたい

事務局より報告

市長コメント 8月29日 工期は見送る

新たな竣工時期 竹中・文化庁、有識者と協議したい

できるだけ早く今年度中に示せれば

今後部会 工程表は示してご議論していただきたい

なにかご意見あるか

川地: 来年の3月中

2022年断念 全く先が読めていない

そういうなかで、市長は「市民の声を届けるんだ」

市民の心が竣工時期があいまいな中では市民の心が離れていくと思う

そうとう石垣部会が穴蔵石垣についても、はね出しについても

議論のテーブルに着く

工程は目標値としてできる

市民の心が離れないため、来年早々にも 新たな工期はいつ

されてはどうかと思う

私の個人的な意見 ぜひそういう方向で

目標は作れる

蜂矢: ありがとう

佐治: 目標は作らないといけない

できるだけ早くスケジュールを示したい

蜂矢: 議事に移る 3件について

瀬口: 事務局から説明を

竹中: 資料2

記録、記憶の継承について

3D スキャンデータなど検討

博物館・観光施設記録を

配管計画 別の計画を後で示す

セキュリティは検討

文様

瀬口:ご質問ご意見を

特にないか

次 防災設備設置計画 資料3

竹中:再検討

アラーム弁室 階段室に

後付けのカバー 今回の再検討案 踊り場中止

木の目隠しパネル

前回の階段下、今回を比較して意見を

瀬口:意見は

川地:前回、三浦先生 階段背中に沿わずのではなく、別にしてはどうか

そう理解した

開かずの部屋があるはず

関係者の控室 こういう風にたてれば、非常にきれいになる

基本的にはこれでいい

5階消火栓 上にスプリンクラー 北側の廊下

一つは将来的に1日休日2万人

5階も人があふれる 角を西北角で納めればいいのか？

5階の消火栓の位置 理由をお聞きしたい

これはちょっと消火設備に関係ない

史実に忠実に復元

4ページ 御成階段の前に格子 鶴舞図書館資料に「こうし」

実測図とは違う

写真があるのか

11ページ 階段が見えている

図面上には板壁があると思う 表現された理由

竹中:5階北側理由

4階西 3の間 4の間がよいのでは？

5階廊下 角の部分は梁が複雑 4階天井配管がシンプルになる

より詳細な検討 西北も含めて検討したい

竹中:史実に対する回答

目が細かい格子

格子は格子だが、メンテナンスができるように両開きにした

竹中 階段パース コメントできない

より詳細な検討 修正していきたい

川地: 地下 1 階格子「設備メンテナンスのために格子の位置を変えた」

ちょっとまずいだろう

パースを見ていると、井戸のところ写真

かなり荒い 写真か何か記録があったのかなあ

設備的配慮で格子の位置を変えたのはまずい

名古屋城: 史実に忠実に 格子 しっかり調べたうえで

設備機器設置するうえで次に検討

竹中と名古屋市で検討したい

瀬口: ほかには

古阪: 史実に忠実 重要

考えるばかりに、新しい設備をつける

消防法「おかしいじゃないか」

新しい技術 ここでずっと聞いても理解できない

市と竹中 技術的と史実 全体をどう協議しているのか

それに関して我々はどうかかわれるか

竹中: 基本的には、地階の格子

名古屋城から説明あったが、史実どおりの復元を優先

マッチする形で新しい技術を提案する

不都合があるところ スプリンクラーの配管 壁の上を貫通しないといけない

史実の壁に穴をあける

基本的には史実の復元

意匠は解釈の問題 適正に

古阪: 最終的には建築確認申請するのか

竹中: はい

古阪: 事前にチェックするならよい

史実に忠実 新しい技術が出てくる中、要注意  
部会に出して  
実態が見れない

名古屋城: 史実に忠実復元 大前提

設計をどうしていくか  
復元建物 人の安全  
建築基準法同等の安全性をもつ  
3条適用除外 建築審査会に諮って許可をいただく  
防火安全  
史実通りにできない部分があるかもしれないが、性能を確保する  
設計を進めて建築審査会の許可を得たい

三浦: 史実に忠実

格子の慳貪だったのをメンテナンスのために開き戸にする かまわない  
格子の間隔が変わる メンテナンスに関係なくどちらでもよいのであれば史実に忠実にして  
ほしい

質問 2ページ 地下の床下配管 きになったのは、緑色線床下配管  
天守入口の枡形石垣の下を貫通している。  
耐用年限 50-100年くらいの現代建築ならこれでも構わないが、  
だいたい4-500年はぜったいこの部分は解体しないはず  
大重量がかかる石垣の下に、耐用年限が短い配管を通すのはいかがなものか  
通常であれば、石垣の下を避けてすこし遠回りすれば、床、見えているところがある  
石垣の下でなければ掘り返すことは用意  
石垣の下を通されるというのは、4-500年間石垣重量を受けるとすると、  
コンクリートで上を保護するのでしょうか、心配  
石垣の下を通すのはなんとかならないか

竹中: 床下配管については、小天守橋台からいま現状、地中のトレンチがある  
ここから持ってきている。

同じような形式を踏襲しようとしている。枡形石垣の下  
この辺については、今後の木曾の構造等を含めまだ検討の余地が大分ある  
先生のご意見を踏まえ、メンテナンスしやすいような方法を検討したい

瀬口: 現在トレンチがあるんですね

竹中: 柵形入口まではある

その奥については今後構造の内容に関わってくるので、メンテナンスしやすい方法を検討したい

瀬口: 石垣の下を通すと難しい

竹中: 配管のルート 石垣の下 コンクリートのカバーするだけでなく、厚い2メートルくらいのコンクリートの塊の中に、メンテナンスできる配管のスペースを作るつもり 荷重がかかる状況 配慮したい

瀬口: ほかには 私から質問

スプリンクラー 水が出るんですね？

水はどこからもってくるのか？今は水圧が高いから、水槽なくても、

今の鉄筋天守 屋上に水槽がある たしか

今回は水槽はどこに置くのか

竹中: 貯水槽 南園 売店東側に計画している

デザイン博で使ったキュービクルの跡、本丸御殿のポンプ室があるあたり

まとめてスプリンクラー、屋内消火栓用の水源のタンクを置かせていただければ

今後の協議 位置については変わるかもしれない

水槽なしで設置できるものではない

瀬口: こんなことは無いと思うが、本丸御殿が火災にあったとき、

小天守に延焼する恐れがある

今は内部の火災がおこったときの対策だが、天守だけで独立しているわけではない

延焼についても防災対策は出てくるのか

竹中: 本丸御殿と小天守 間隔が狭い

一般の基準法で言う延焼の恐れがある範囲に該当する

建設省から通達が出ている。

伝統的建造物であっても、延焼のおそれがある場合、輻射熱の計算をして

必要があればドレンジャー等の設備設置を検討することと言う通達がある

計算したら、本丸御殿で出火した場合、逆に小天守で出火した場合、輻射熱対策必要

ドレンジャー 通達通りに設置しようとしたら、消防から「もう少し有用性高いものを」  
ドレンジャーではなく消防基準の放水銃を付ける計画で検討

瀬口:ほかには よろしいでしょうか  
次は建具

竹中:建具  
類例で復元

瀬口:意見は  
復元原案と復元案が示されている  
復元案がこれでよいか

川地:最初に説明された 5 階ふすま  
13 回部会結論が出たかもしれない  
もともとふすま 推測に推測を重ねて  
「金城温顧録 かつてふすまがあった」  
史実に忠実 どうか？  
天井の造作 結果的に本丸御殿 表書院 1 の間  
5 階 繰り方がついている  
表書院 繰り方はない  
それだけで推測する ふすまを取り付けるというのはどうなのか  
専門の先生にお聞きしたい  
こういうふすまがあったかもしれない 1 枚だけ表現する  
いいのでは？いまだにそういう気持ち  
ふすまの引き手 「表書院の玄関」 ないという理解  
赤で囲っている 上段の間 一の間 ふすま  
引き手は赤で囲まれたもの  
玄関 2 の間のはず  
ふちが一緒 手がかり 形が違う  
両方玄関 上段、一の間 右側が 2 の間ではないか  
ふすまについては意見を聞きたい

瀬口:5 階ふすま 仮定に仮定を重ねる  
なしでいいか

三浦: ふすまだとわかった

畳 一の間だけ 一面をふすま

ほかはつけない

必要なところだけやってやめる

実施設計

どこで作るかこの委員会で決めていいのか

竹中: 建具 管理運営 邪魔になる

導線が FIX されていない

三浦: 5 階

検討して

瀬口: ほかには

取っ手は

竹中: 見直してみる

川地: 玄関とはなにか

竹中: 表書院の玄関ではなく、観覧者の方がみるところを玄関と表現した  
同じ建物で使われている

川地: 場所によって違う

1 の間、2 の間、3 の間で引き手が違う

瀬口: 再度検討して

麓: まだまだ検討した上で

ここまでは認める

ふすまを復元するかしないか 活用・見せ方

必ずしもすべて復元しなくてもいい

絵 ない

塗 漆塗り

引き手 本丸御殿の表書院を参考

それ以上のことを検討してもらいたい

いま決められなかったことを

瀬口:ほかには

三浦:小天守穴蔵 引き戸 落としはどうするのか  
復元するのか?

裏側 どれを復元するかどうか

公開するかどうか

物置収容施設 逆にカギをかけないと

カギは近代的なカギか

実施設計までに

瀬口:穴蔵はまだ決まっていない

今日提示、復元原案復元案

穴蔵については別

よろしいか

川地:小天守 4 ページ 御金蔵

結論:開き戸はつけない 引き戸を付けます

疑問

鴨居 引き戸のための鴨居は後で付けたと思える

開き戸と引き戸 一緒についていたのではないのでは

開き戸は重い 垂れ下がってきた

あとで敷居鴨居を付けた 明確に金城温願録に書いてある開き戸を

復元すべきではないか

竹中:開き戸と引き戸

いつどういう状態だったのか 確定的なものは言えない

建具としては、引き戸がベースではなかったか

実測図 つけたしのように書かれている

壁の内側

後付けのように見えるのでは

開き戸 もともとあって、取り扱いが大変

簡易な開き戸が後で付けられたのではないか

創造の域を超えない

三浦:金蔵だとすれば、板壁ありえない

1か所だけ 引き戸大戸を付ける

鴨居の外側 打ち付けて大戸という

重要文化財 全部そうになっている

鴨居に直接つけたのではない

下側は間違っている

よくわからない人が実測図書いている

上は詰まっている

外側当たり前

2寸 外側に出っ張りがついている

戸の厚みは3寸4寸

地下でしけて腐った 金蔵の金もなくなった

湿気防止のため 簡易的なものは肘金

瀬口:ほかには

麓:開き戸と引き戸 どちらが古くて

宝暦の修理後 この両者がついていた?

大戸と開き戸 ついていた可能性も否定できない

どっちを優先するかより、開き戸は根拠はない

引き戸については2階部分に類似するものがある

それを参考にして、もう少し大きな板戸にする

瀬口:ありがとう

4-5 滑車が付いた図面がある

滑車の有無 ないのか

三浦:ある 重いから 檜の木

瀬口:あるのが常識?

三浦:普通はある

瀬口:予定していた防災設備 意見を聞けた

いちいち繰り返さないが、地階の格子 間隔要注意

今の穴蔵建具 意見を聞いた

その他はないのか？

名古屋城:ない

瀬口:終わり

佐治:ありがとう  
検証して検討

蜂矢:以上で終わり

11:28